

# WORDS OF A PAINTER — 清川泰次 その思索と絵画

2008年8月2日(土) → 11月30日(日) 世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー

世の絵をみず人に

23.3.20

世の絵をみず人に

それか いろんな種別の人にも

暖い人生の 甜べを感づける 様な 絵と画に

世の中にあるものを(人おいても風景の物も)

どんなに上手く、どんなに立派形しても

それは結局 あらものの くりかへしにすぎない。

我々は 現実実にも 事の出来るものには

余りにも あまぢきましている。

幻想と 世の中の

つかれた人まを 世の中は しめよしの 世の中の



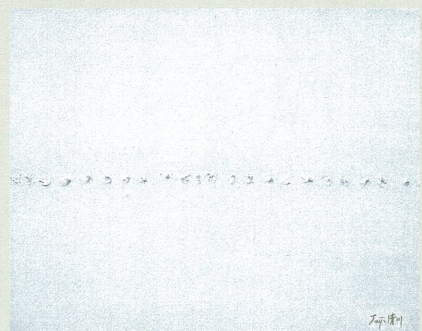
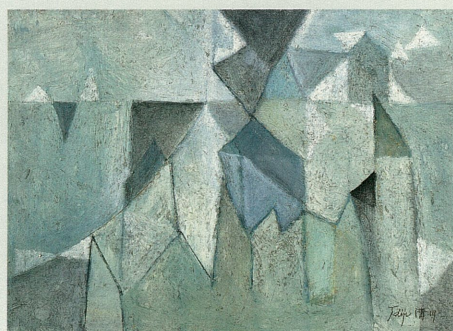
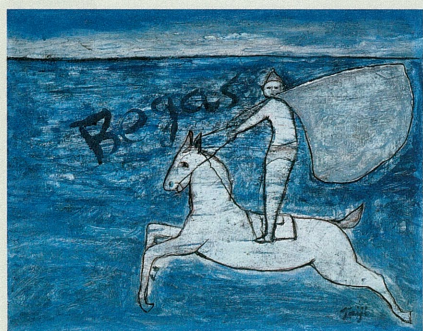
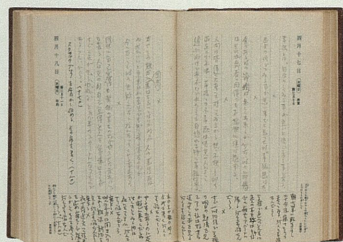
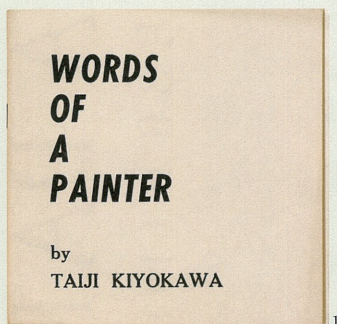
# WORDS OF A PAINTER — 清川泰次 その思索と絵画

私の絵画も全くの自由から生れたものである様に  
私の言葉も全くの自由から生れたものである。

画家が語る言葉。これは絵画とはまた異なる形で、その内なる思索や感性を端的に表現するものだといえるでしょう。独自の抽象絵画の世界を展開した清川泰次(1919~2000)は、青年時代から晩年に至るまで、絵画とともに多くの言葉を残しました。戦後ニューヨークでの個展に際し作られた小冊子「WORDS OF A PAINTER」をはじめ、彼が出版した画集には、作品制作における信条や人生観を記した短い文章がつねに添えられています。

またその思索の原点は、学生時代の日記や随想、自作の写真集などに遡ることができます。若き青年の思いがつつられる中、しばしばみられる「幸福」や「自由」を噛みしめるかのような思いを込めた記述は、昭和十年代後半という不穏な社会状況を反映しているとも思われ、これは後の絵画表現にも引き継がれていったようです。

対象にとらわれない色彩や線のみで展開された、清川泰次の自由な絵画表現を支えていたものは何だったのか。本展では彼の言葉を通じて、その思索と作品の変遷を考察いたします。



1. 個展小冊子 (20th Century West Gallery, New York) 1965年 2. 清川泰次自作アルバム 1938年頃 3. 清川泰次日記 1940年 4. 清川泰次自作アルバム 1947年  
5. 《ベガス》油彩、カンヴァス 1947年 6. 《海の見える街》油彩、カンヴァス 1956年 7. 《白の中に白い点々》油彩、カンヴァス 1977年

2008年8月2日(土) → 11月30日(日)

世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066 世田谷区成城2-22-17 TEL:03-3416-1202 www.kiyokawataiji-annex.jp

- 開館時間 / 10:00~18:00 (入館は17:30まで) ■ 休館日 / 毎週月曜日(ただし休日と重なった場合は翌日)
- 観覧料 / 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、中・小生100円(80円)、65歳以上及び障害者の方100円(80円)
- ※ ( )内は20名以上の団体料金。小・中学生は土・日・祝日及び夏休みの間無料。※障害者で小・中・高・大学生、および障害者の介護者(当該障害者一人につき、一人に限る)は無料。
- 交通 / 小田急線「成城学園前」駅 南口徒歩3分



本館情報 世田谷美術館 〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL:03-3415-6011

企画展 「建築がみる夢——石山修武と12の物語」 6月28日(土)→8月17日(日)  
「ダニ・カラヴァン展」 9月2日(火)→10月21日(火)  
「山口薫展 都市と田園のはざままで」 11月3日(月祝)→12月23日(火祝)

収蔵品展 「ナルドレンズ・ミュージアム 物語が聞こえる——はくちのお気に入り」 6月27日(金)→9月7日(日)  
「アウトサイダー・アートの作家たち」 9月19日(金)→11月30日(日)  
[特別同時展示] ——大地の歌を描く人々〜ベルギー・クレアムの画家たち——

分館情報 会期: 8月2日(土)→11月30日(日)

向井潤吉アトリエ館 〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL:03-5450-9581  
「書籍の仕事 向井潤吉の場合」

宮本三郎記念美術館 〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13 TEL:03-5483-3836  
「宮本三郎の日常風景 暮らしを描く」